

いつでも市民が公共空間で憩い、交流することができるまちの実現に向けて、公共空間の利用に関する一元的な情報発信とネットワーク作り

テーマ1. 公共空間利活用マッチング支援

現状

- 市内中心部の公共空間（広場や道路、河川敷など）は、利用者及び利用時期が固定化されている
- 公共空間の利用事例や利用に関する情報（所在・空き情報・ルール・手続き・費用など）が散在しており、新規で公共空間を利用する際のハードルが高くなっている
- 公共空間を利用する際に利用方法を相談したり、連携可能な主体や既存の取組とマッチングしたりするための場が不足している

目指す姿

- 日々、多様な主体によって公共空間が利用され、いつでも市民が公共空間で憩い、交流することができるまちが実現される



解決したい課題

- ① 公共空間の利用に当たって必要な情報を一元化した上で、公共空間を利用したい人に必要な情報を発信したい。
- ② 公共空間を利用したい人、公共空間の管理者（利活用してほしい人）、くまもと広場ニストなど、多様な主体のネットワーク（相談、コミュニケーション、マッチング等ができる場所）を構築したい。

【関連する取組】くまもと広場ニスト